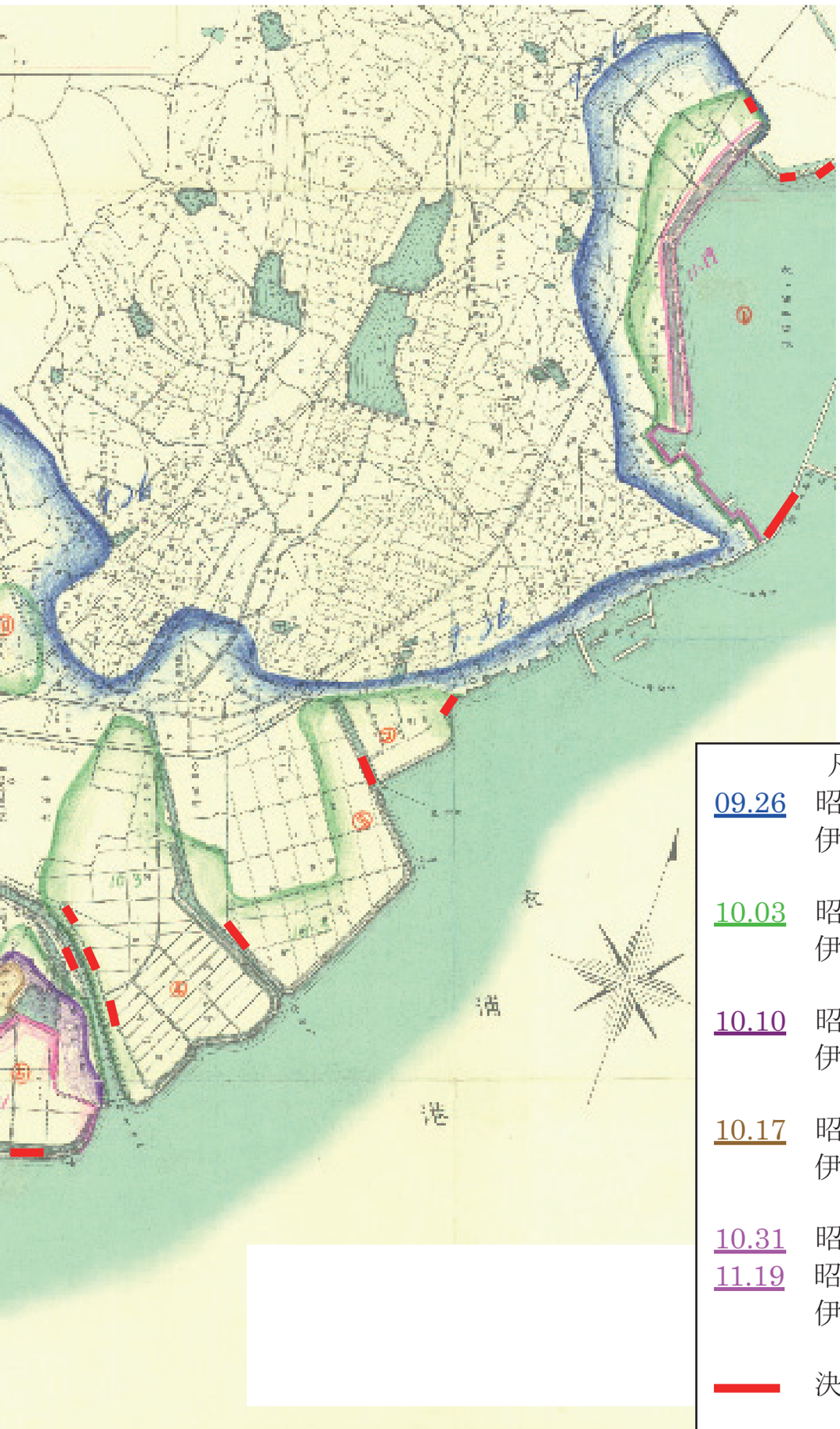
復刻版
2009

１９５９年９月２６日

伊勢湾台風と半田市

その被害と応急処置

伊勢湾台風による浸水区域



凡　　例

09.26　昭和 34 年 9 月 26 日
伊勢湾台風による浸水区域

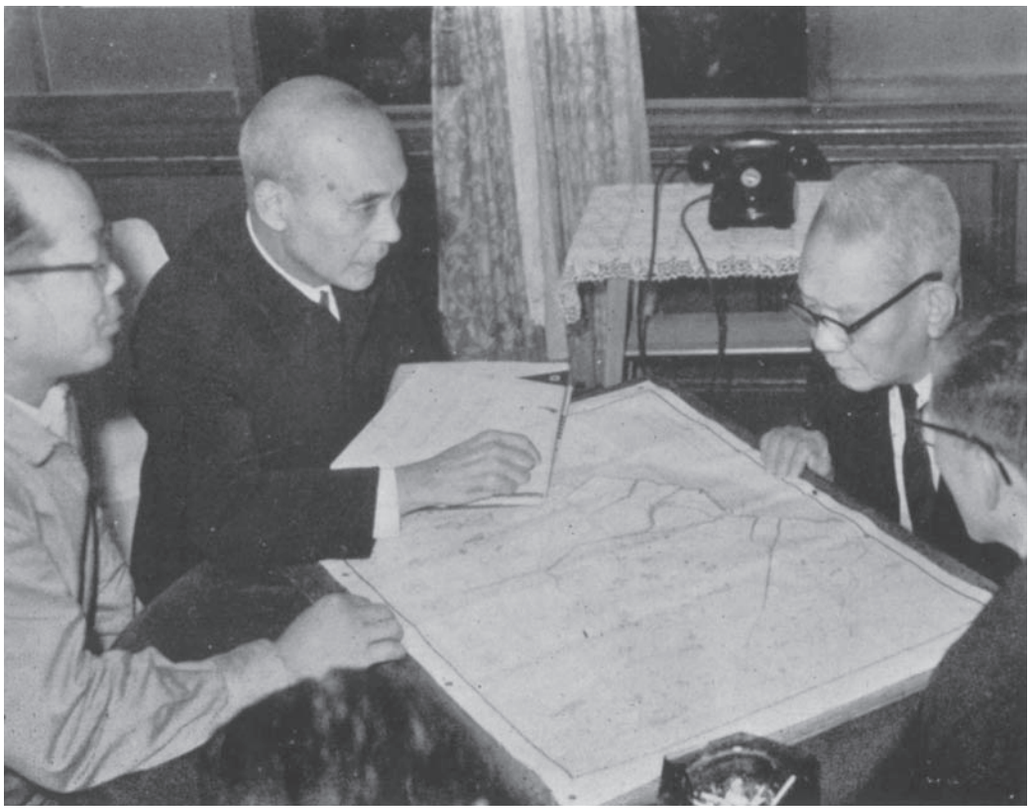
10.03　昭和 34 年 10 月 3 日
伊勢湾台風による浸水区域

10.10　昭和 34 年 10 月 10 日
伊勢湾台風による浸水区域

10.17　昭和 34 年 10 月 17 日
伊勢湾台風による浸水区域

10.31　昭和 34 年 10 月 31 日
11.19　昭和 34 年 11 月 19 日
伊勢湾台風による浸水区域

決潰ヵ所



説明する深津市長（中）と杉江議長（左）
市長室で益谷中部災害対策本部長に被害状況を

惨禍をこえて

半　田　市　長　深津玉一郎
半田市議会議長　杉江　喜一

この冊子は、伊勢湾台風による本市の被害とその応急処置の概要を、写真を主にして集録したものであります。一しゅんにして291の人命と百余億円にのぼる財物を奪ったこの惨禍は、文字通り本市未曾有のものでありまして、この大きな不幸に打ちのめされた当時の気持は〝どうなることか〟と不安で一ぱいでありました。しかし、内外各方面から寄せられました物心両面の暖かいご支援にはげまされ、ふるいたった全市民一丸の復興意欲によりまして、予想以上の快速で復旧をみつつありますことは、ただただ感謝のほかはございません。

もちろん、こんな惨禍が二度とあってはなりません。この大受難の教訓を十二分に生かし、惨禍を絶後たらしめるばかりでなく、さらに〝楽土半田〟を築きあげることが、私ども市民の重大使命であると信じます。産業港都建設という本市百年の大計実現を推進することこそ、繁栄への道でございましょう。

目　次

気象状況……1
被災状況……2
　被災総額……2
　犠牲者……3
　建物被害……4
　土木関係……6
　文教関係……10
　農水産関係……12
　商工関係……14
　台風下浸水中の火事……17
応急処置……18
　遺体の收容……18
　避難收容と給食……19
　生活物資・学用品の支給……20
　弔慰金と見舞金……21
　激じん地の応急整理……22
　堤防の仮締切と排水……23
　労力奉仕と義援金品……24
　医療と防疫……24
　住宅対策……25
　農業対等……25
　商工対筆……25
　漂流物整理と清掃……26
　治安対策……26
災害日誌……27
犠牲者合同葬……28

気象状況

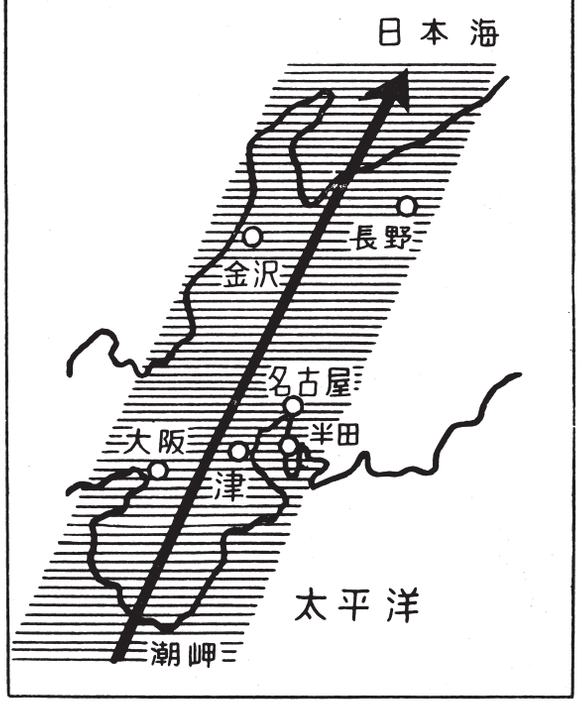
昭和34年9月26日夜当地方を襲った伊勢湾台風（15号台風）は、これまでの台風災害史上特筆されてきた昭和9年の室戸台風、同20年の枕崎台風に匹敵する超大型となって本土に来襲、26日午後6時すぎ紀伊半島南端の潮岬付近に上陸、北西の進路をとり、富山付近をへて日本海岸ぞいに進んだ。

台風が大型のため当地方も完全にその暴風雨圏内に入り、上陸ごろから猛烈な暴風雨に見舞われ、上陸時の中心気圧は930ミリバールあつたが、その後さらに勢力を増して、当地西方を通過のころは940ミリバールとなり、最大瞬間風速は60メートルを突破したとみられる。

この通過時が満潮時に近かく、衣浦湾が台風中心の右側にあるという悪条件が重なって、既往最高潮位よりさらに約1メートルも高い高潮の襲来となった。

この風と潮は、ともに当地方の最高記録である。

伊勢湾台風の進路と暴風雨圏



強風で庭の巨木も倒れ——高潮でコンクリート堤防もこの始末

一夜に住宅多数が全壊流失し多くの犠牲者が出たところ

被害状況

被害総額103億4300万円

伊勢湾台風は、本市にとって最悪のコースと時機であったので、暴風と高潮は瞬間に海岸地帯に未曾有の大惨害を生んだ。海岸地帯約13.72平方キロに及ぶ冠水地域は、人命の損傷、家屋の倒壊流失がはなはだしく、各地の護岸堤防は破損あるいは流失し、旧半田の東部一帯は台風後10余日も浸水受難が続いたのである。被害の概況次のとおり。

被災総数		9,511戸		流失	511戸	教育関係	30,287
		9,560世帯		半壊	1,963戸	土木・農水産関係	800,671
		43,723人（全人口の62%）		床上侵水	1,918戸	その他	45,671
人的被害	死亡	290人		床下侵水	4,181戸	公営企業施設	59,248
	重傷	92人		非住家	600戸	住家屋財	3,043,150
	軽傷	572人	被害総額		千円 10,342,926	農水産業	273,899
家屋被害	全壊	938戸	公共施設		876,629	商工業その他	6,090,000

無残な康衛町

全滅の日の出町

痛ましい犠牲者291人

半田中学校生徒の台風体験記の中に〝父は裏口に出て避難する人を見て笑っていた。父の頭には去る13号台風と、がんじょうにできた堤防のことがあったらしい〟また〝避難してくださいということもでていたそうですが、あまり大きくないだろうと思って避難はしませんでした〟などがあるように、堤防に信頼して避難を見送っていた人も多かった。

この堤防が、13号台風をはるかに上回る高潮で決壊し、臨海地帯は暗黒の夜半一瞬にして泥海となったのだからたまらない。

犠牲者の多かったのは東・瑞穂両区(通称山方新田)で266人、その他半田地区1人、成岩地区6人、乙川地区16人、亀崎地区1人で合計291人(うち市外者1人)であった。負傷者も山方地域に多く、全体で954人(重傷92人・軽傷572人)であった。

亀崎町もひどかった

流失

全壊

半壊

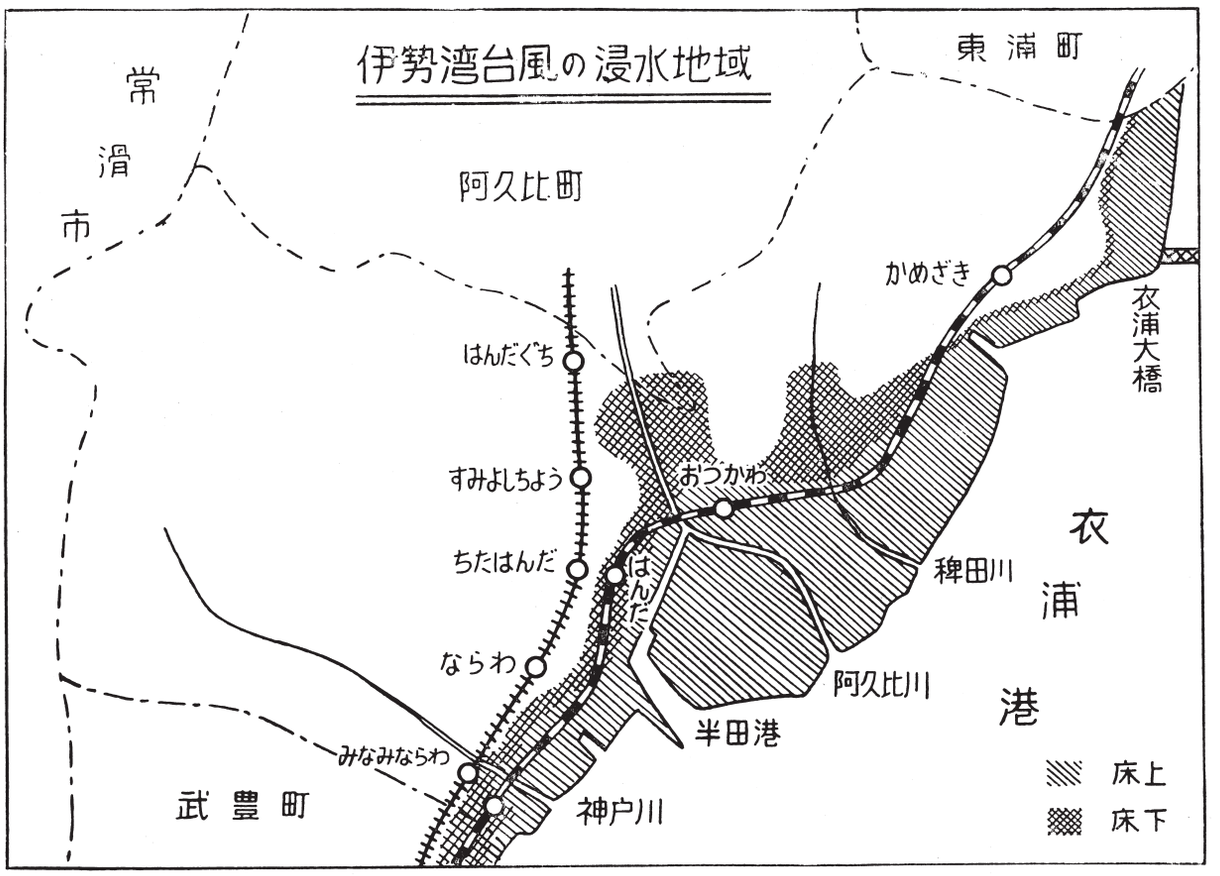
建物被害

臨海地帯における高潮によるものが激じんで、東区日の出町のごときは全町流失のみじめさ。暴風による倒壊は高台地帯に多く、ほとんどの家屋が多少の損害をうはた。競艇場の施設もわずか1棟が残っただけで全部流失してしまった。

侵水地区は全市域の3分の1（約13.72平方キロ）に及び、東区の低地帯では10日余も家屋侵水が続いた。

住　家	9,511戸	43,723人
全　壊	938戸	4,375人
流　失	511戸	2,364人
半　壊	1,963戸	9,379人
床上浸水	1,918戸	8,728人
床下浸水	4,181戸	18,877人
非住家	600戸	

この住家家財の被害額は30億4315万円と推算される。



海岸堤防破壊のため長期侵水の新栄町方面

（台風時には水深３メートルを越え、二階まで侵水）

部門別被害状況

土木関係

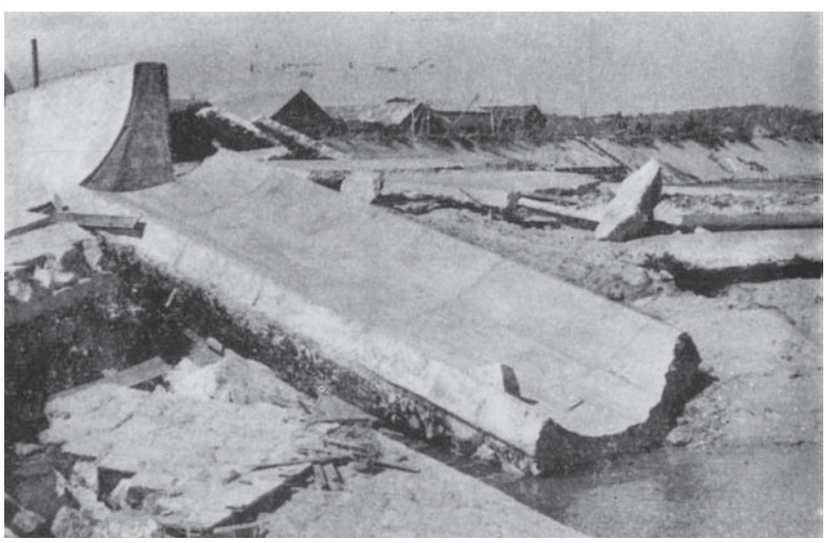
公共土木施設の被害総額は8億円を越えているが、特に河川・海岸の堤防被害が大きい。堤防の破損は大きいものだけで43カ所（延長5,950メートル）に達した。その内訳は

決壊	海岸	9	1,200m
	河川	10	600
	入江	4	250
上部と裏法流失			
	海岸	8	2,100
	河川	12	1,800

で、数10トンもあるような大きなコンクリート塊がごろごろと散乱し、当時の恐怖を如実に物語っている。このため沿岸は高潮の侵入により、未曾有の惨害をうけた。

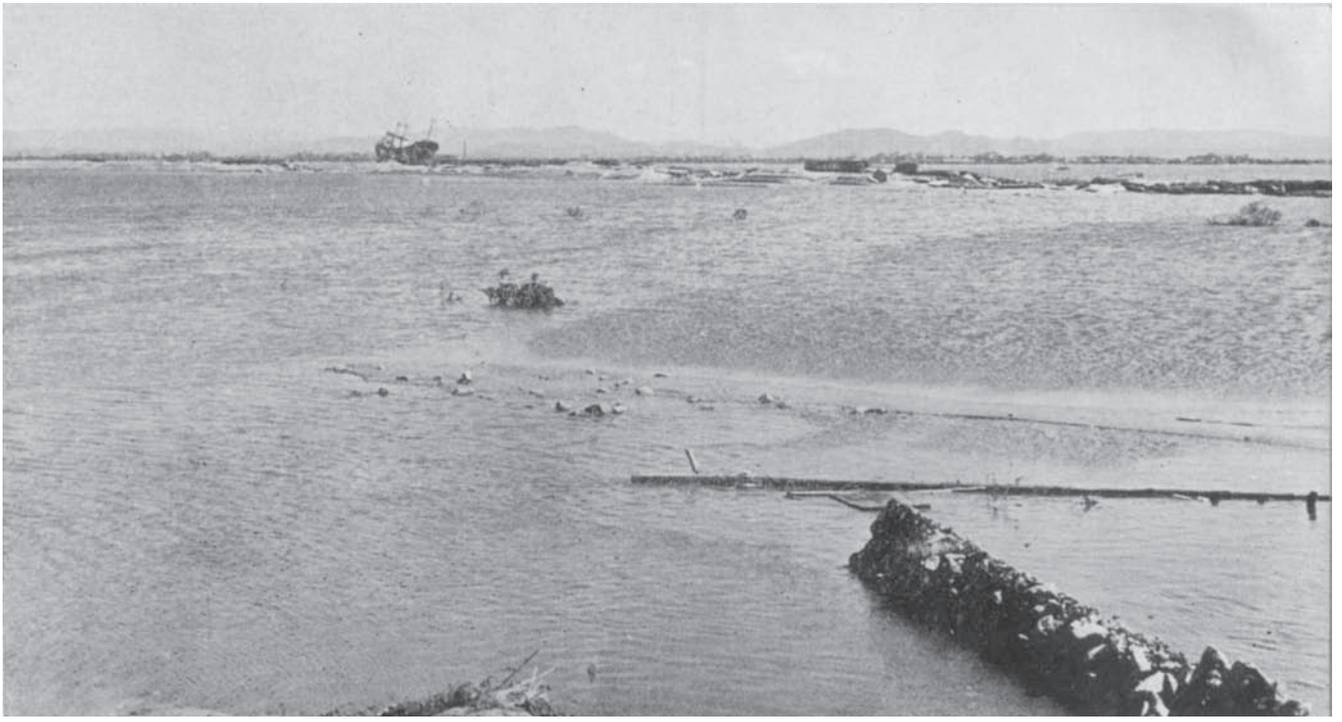
なお、樋門も2カ所が破損した。

半田港



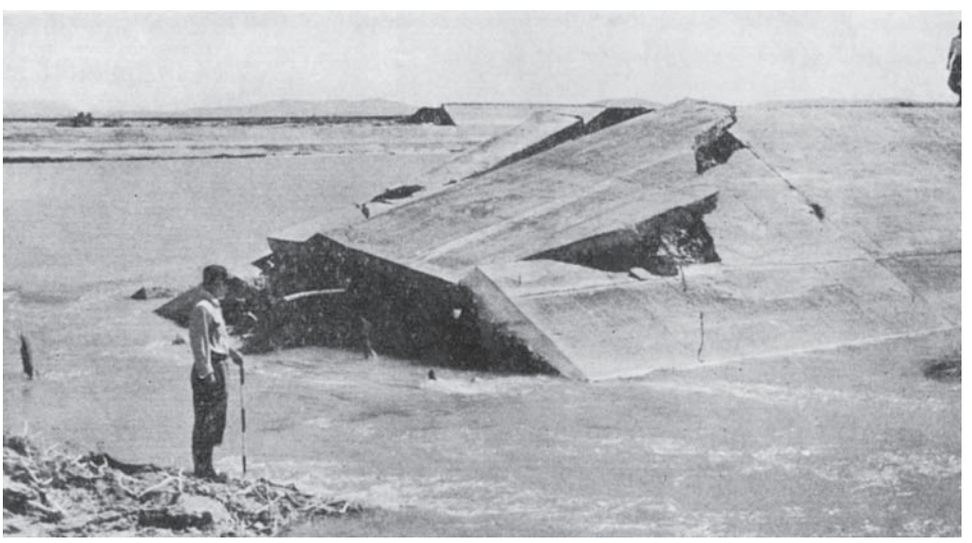
康衛町

港町

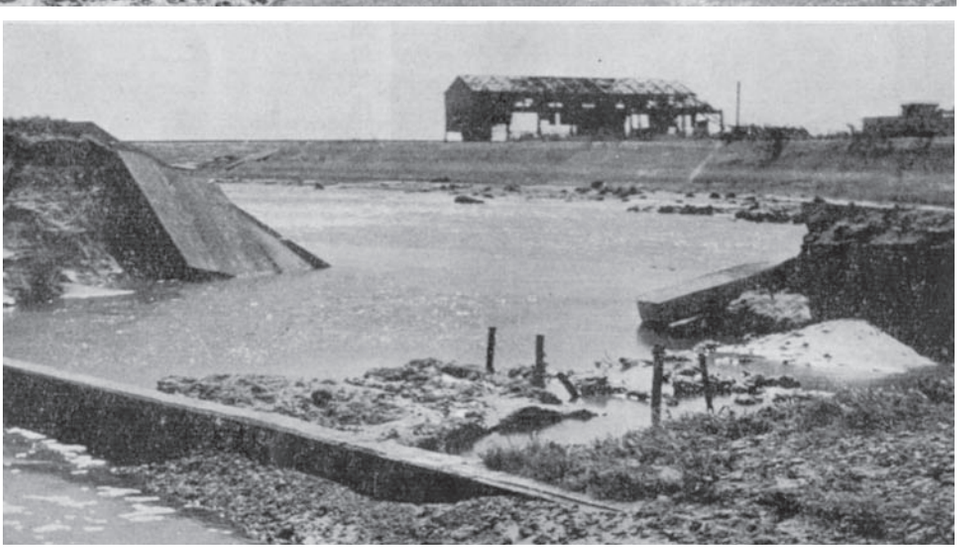


堤防決壊による冠水状況—康衛町方面

阿久比川右岸



神戸川左岸



衣浦干拓堤防（二級国道）100メートルが決壊し、衣浦大橋も通行止め

亀崎町地内

乙川向田町地内

道路の破損も大きい。二級国道が亀崎地内（衣浦干拓海岸堤防）で100メートルにわたり決壊したのをはじめ、決壊や法崩れは21カ所（延長1,900メートル）に達し、冠水地域の路面はほとんどが洗い去られた。

用悪水路は16カ所（延長1,600メートル）が破損、溜池も4カ所が破損した。

阿久比川下流江川橋は上部を流失

橋は、阿久比川下流の江川橋が上部流失で交通不能になったのをはじめ、5カ所（延長180メートル）が破損。

国鉄武豊線も3カ所（延長450メートル）が路床を流されて不通となった。

堤防に漂着した600トンの貨物船

武豊線のレールもこんなに

文　教　関　係

学校・公民舘・図書舘など文教関係の被害総額は約3,028万円である。

生徒児童の犠牲者は半田中学校19人・半田小学校62人・成岩小学校２人・乙川小学校１人の84人で、生徒児童の家庭で全壊・流失・半壊・床上侵水等の被害を受けたものは3,915人に及んでいる。

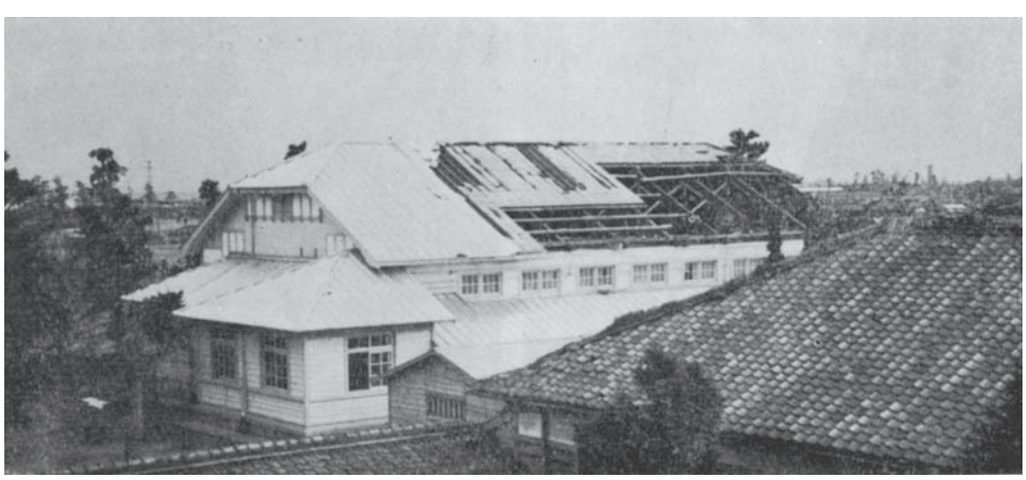
小学校７、中学校４の市内全校が被災し、建物の被災状況は全壊310平方メートル（94坪）半壊500平方メートル（152坪）大破45,421平方メートル（13,764坪）で、備品などの損害も大きい。

亀崎小学校

乙川小学校

半田小学校

屋根が無くなった半田中学校講堂



幼稚園では亀崎の被害がひどく、新築間もない園舎が破損した。

保育所のほうはさらにひどく、平地は全壊、半田同胞園で1棟が全壊し、他所の破損もあわせて258万円の被害。

公民館の被害も全館に及び、大池は全壊した。

こわれた亀崎幼稚園の遊戯室

全壊した大池町公民館

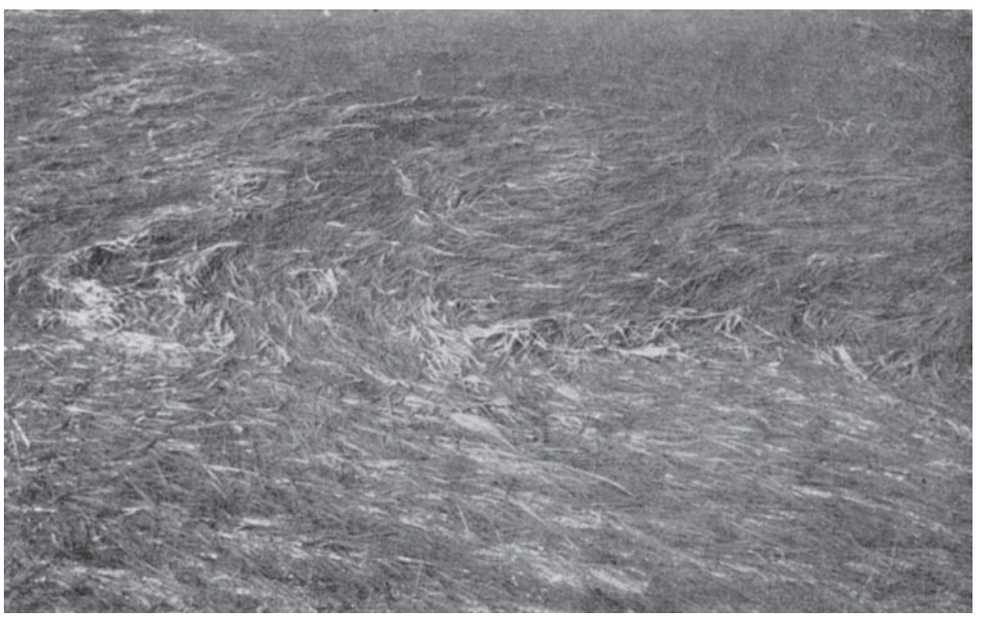
農水産関係

農業関係の被害総額は2億3438万円である。最も大きな損害は収穫直前であった水稲で、作付面積800ヘクタールのうち、20ヘクタールが埋没し、354ヘクタールが冠水したが、冠水の大部分が8日以上で、中には2カ月余に及んだところもあって、収穫皆無となったものが多い。畑作のほうは作付面積400ヘクタールのうち、4ヘクタールが埋没し、45ヘクタールが冠水した。

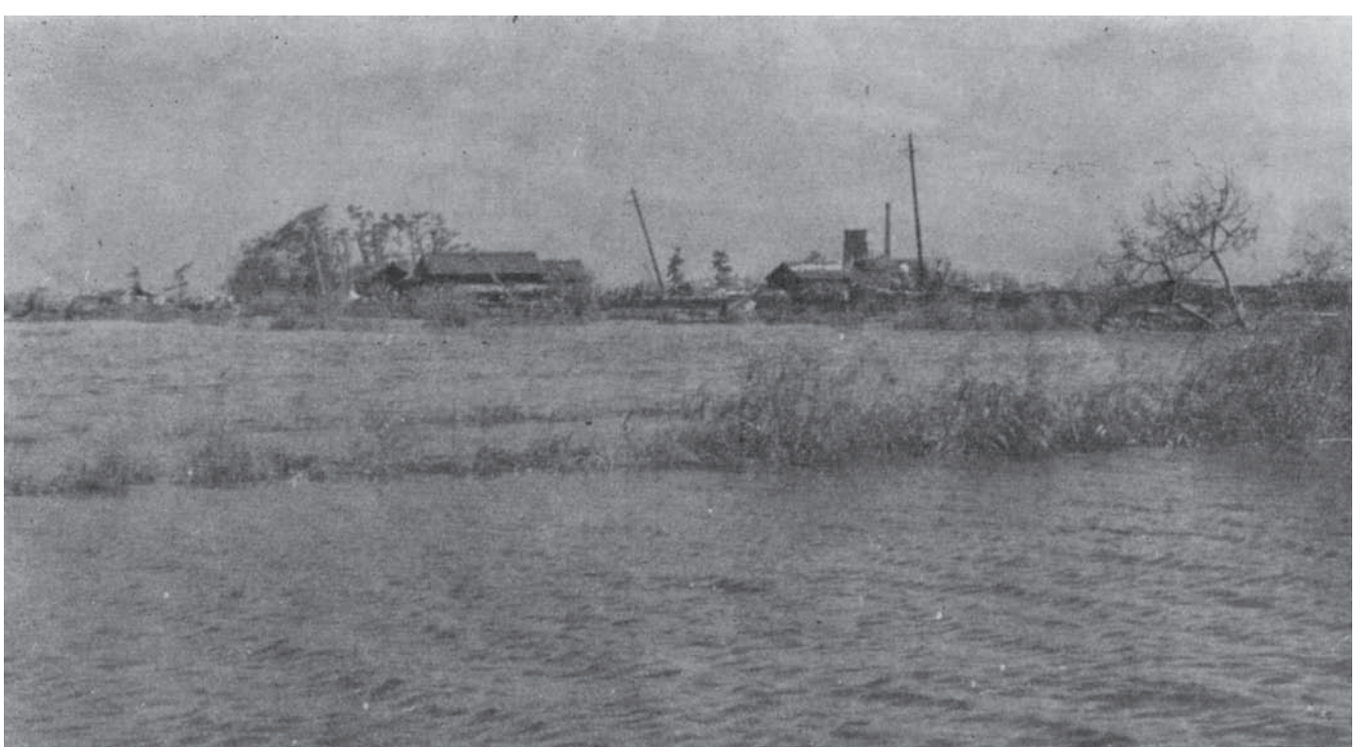
すでに排水を終り、試作成積も良好で、入植間近であった衣浦干拓が、堤防の決壊で海水が侵入し、入植が遅れることも痛い。

家畜被害は乳牛41・和牛3・豚250・山羊20・兎250鶏2,500が死んだ。

ほとんど海水の長期冠水を受けているので、農地の被害も大きい。



潮水をかぶった稲はこの状態



この海水の下は刈りとるばかりの稲田

船だまりはこんなにこわれ……船は道路に打ちあげられた

高潮が猛威をふるっただけに漁業面の被害も大きく、漁港を荒らされ、漁船の流失大破は42隻に達し、ノリやアサリの漁場も荒らされた。被害総額3951万円。

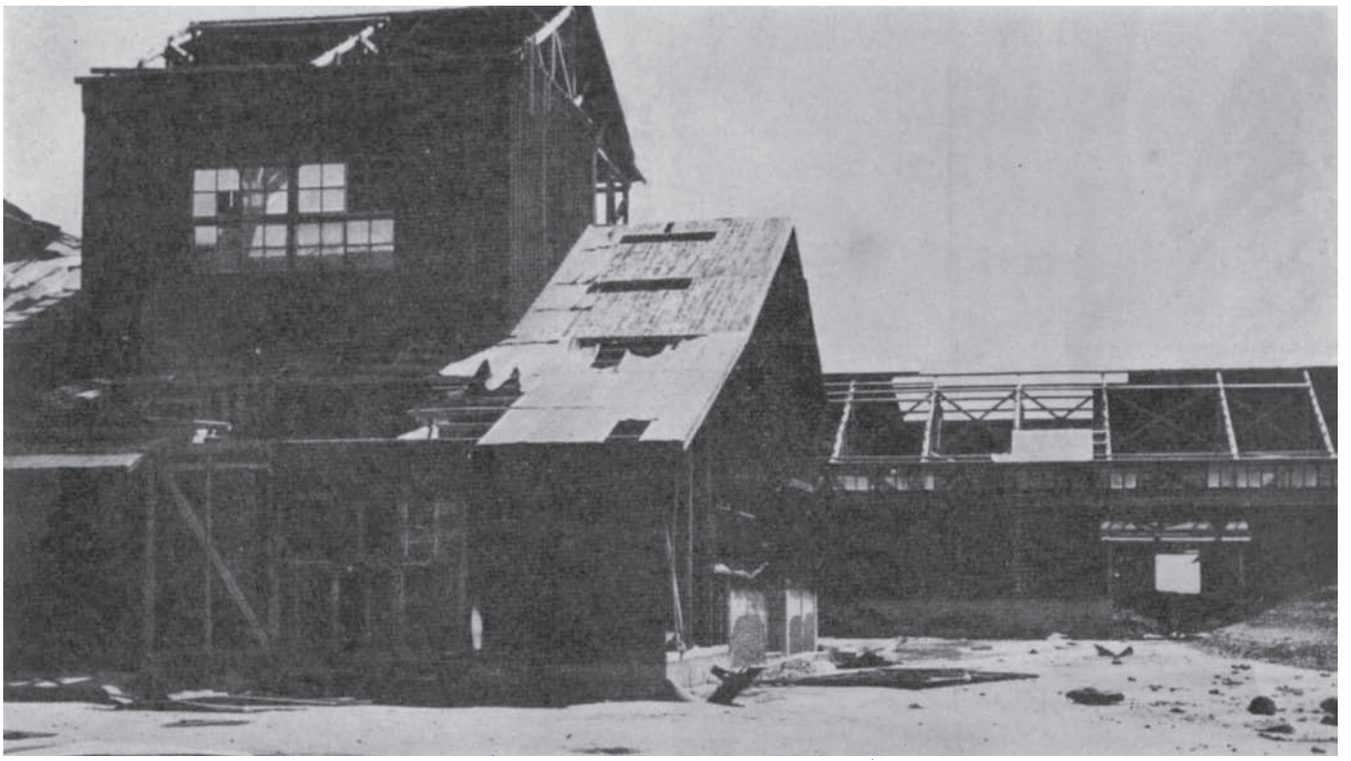
商　工　関　係

商工業関係の被害額は60億9000万円に達し、本市総被害額の約6割である。これは本市の主要工場、商店街が多く臨海地帯や低地にある結果で、暴風と高潮で建物と設備をこわされ、製品・半製品・原材料・商品にも大きな損害を受けた。

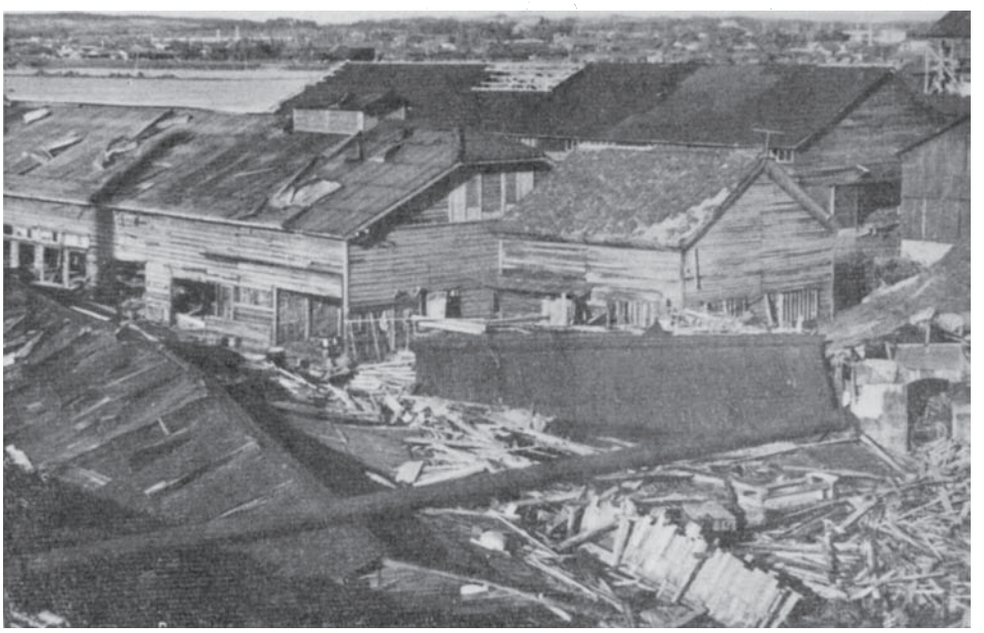
こうした直接被害のほか、操業休止を余儀なくされた損失とか、債権などの回収不能その他の間接被害にも相当大きなものがある。

原材料の被害も大きかった紡績工場

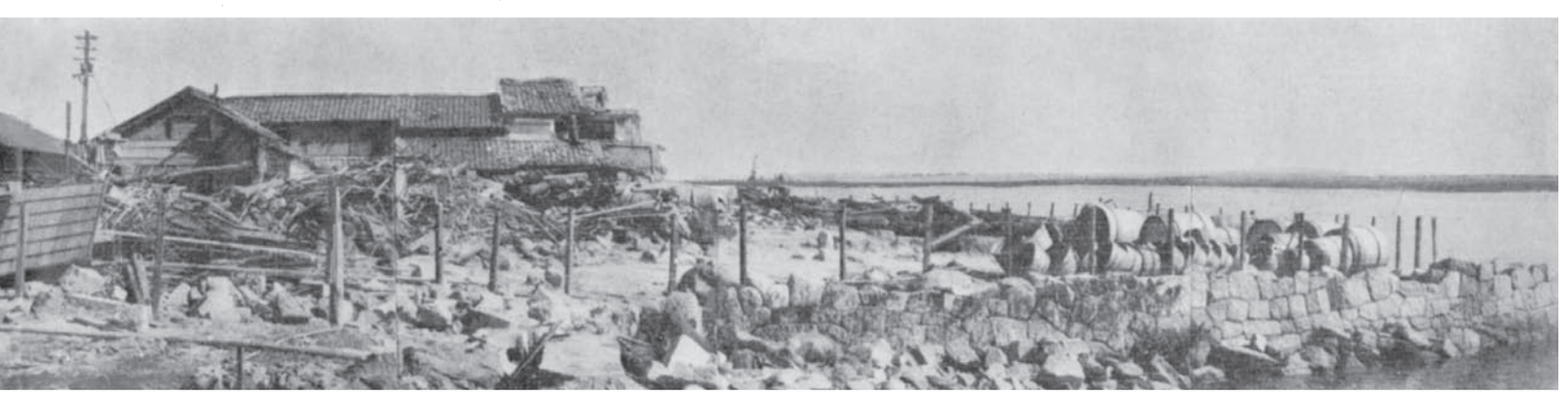
海岸にあった酒造場の惨状

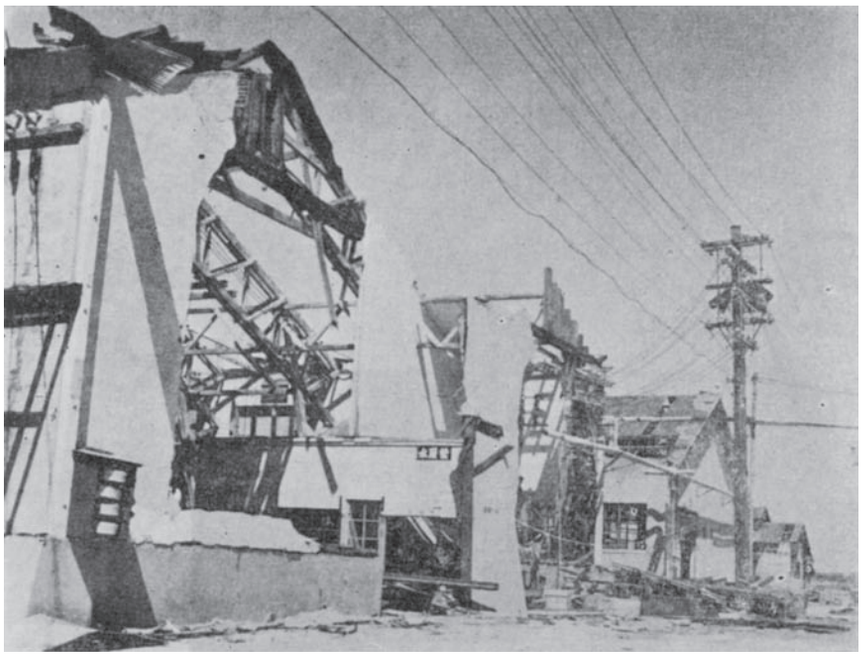


屋根はとばされ大侵水した肥料工場



飼料工場もこの有様





立派な建物も骨組だけ

工場内部まで流木が……

侵水により商店がこおむった商品の流失・汚損の被害も大きい。

商店街の景物ネオンのアーチも街灯も全滅してしまった。

台風下浸水中の火事

中央紙にまで〝水攻め火攻めで死の街半田〟とセンセーショナルに報道された火事が、台風さい中の午後8時30分ごろ中央商店街の東裏におきた。現場一帯は1メートル以上の侵水で消防車は近寄れず、消防員は付近住民の避難誘導を行なうとともに、バケツで重要部分の消火につとめ、干潮による減水を持って消防車が活動した。強風で風下500メートルまで火の粉が飛散したが、さいわいこれによる発火はなく、工場・倉庫・住家など合計16棟(延2,387平方メートル=723坪)を焼いただけで消しとめた。見積り損害額5978万円。出火の場所・原因ははっきりしない。

減水でやっと現場に近寄れた消防車

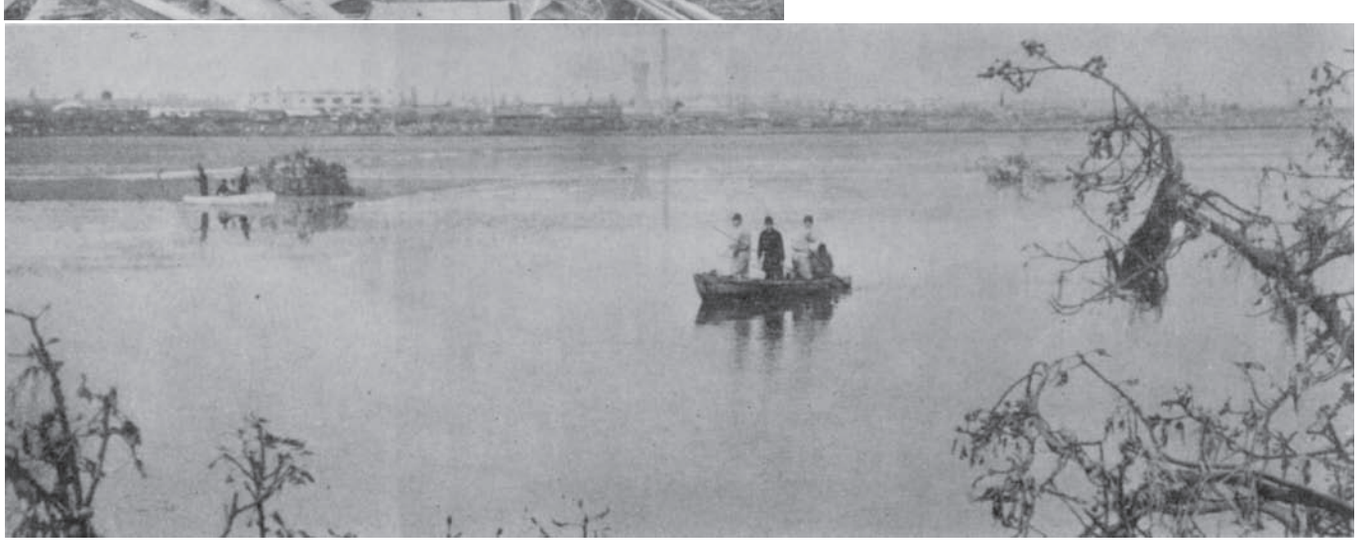
応急処置

涙の犠牲者遺体収容

上…自衛隊

中…警察署

下…船でそうさくが幾日も続けられた



気象台の台風情報により大型台風来襲の公算が大きくなったので、26日は市長以下職員の過半数が残留、地元の情報と県その他からの通報連絡によって停電中に応急手配を進めたが、護岸堤防の決壊による大浸水、くわえて市街中央部に火災発生で、最悪事態を想像されるに至ったので、午後9時ごろ深津市長は当時ただ一つ生きていた警察電話で県知事に〝堤防決壊で市役所付近まで侵水、死者数百名の模様、中心部に火災が発生延焼中〟のSOSを発するとともに、災害救助のため自衛隊の出動を要請した。この報告により県は約6時間後の27日午前1時に名古屋市港・南両区についで本市に災害救助法を発動、自衛隊出動要請も行なわれたので、27日午前11時には守山第10混成団70名の到着をみた。

市では災害発生とともに市役所に災害救助隊半田市支隊を設置、27日早朝急施市議会を招集して被災者救援について協議し、災害対策本部を設置した。28日も議会が開かれ、議会内に議会救援対策本部を設置。かくて両者一体となって災害応急処置と復旧に全力をつくした。

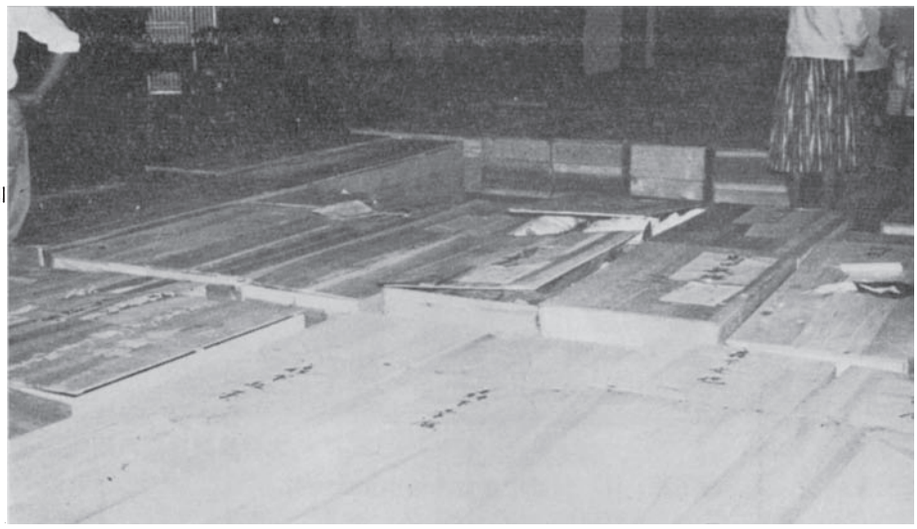
遺体の収容

悲しい犠牲者の遺体収容は、27日早朝から警察署•自衛隊•消防団によって行われた。遺体はおびただしい流木や倒壊家屋の下敷きとなっているものが多く、その収容には大きな困難が伴った。家屋の屋根裏で抱き合っている一家族、子供の手くびをしっかり握っている母親、教科書だけをかかえた生徒……遺体の無残な姿に収容の手が涙でぬれた。

遺体は担架で幸町に特設された災害対策警備本部（表紙写真の人の集まっているところ一路上に白くならんでいるのが遺体)に運び、ここで納棺して遺体収容所（住吉公民舘）に移し、ここで身元確認のうえ順正寺に安置、順次特設した火葬場でダビに付した。

遺体のそうさくは長期にわたり、たん水地帯は船で行なうなど手を尽したが、最後の2体は10月20日漂流物整理の際発見された。

人命救助　この大混乱に警察や消防は危険をおかして人命救助に活動したが、市民によって行なわれた人命救助も多く、130余名が県知事から表彰された。



上－順正寺の遺体安置所
下－特設火葬場でダビに付す

避難収容と給食

救助活動はまず人命に重点をおき、26日深夜から被災者の避難収容につとめ、半田小学校•市役所議事堂など学校•公民舘•寺院の36ヵ所を避難所として合計3,580名を収容した。多くは台風一過後自宅へ復帰したが、流失•全壊などで家を失った187世帯715人（10月28日現在）が市役所議事堂•半田小学校講堂•光照院•協和公民舘•光照寺•向山公会堂•浄顕寺の7避難所で、応急仮設住宅ができるまで避難所生活を続けた。

この人たちは、高潮に追われて身をもってのがれたものだけに文字通りの丸裸である。一中学生は避難当初のことを〝やっと持ち出した教科書を枕にして横になったが、目をつむるとこわれた家、あけると涙で眠れなか

1カ月以上つずけられた炊出し

主な災害視察者

◇9月28日　日本赤十字社長島津忠承氏一行

◇9月30日　自民党副総裁大野伴睦氏、建設大臣村上勇氏一行

◇10月1日　防衛庁長官赤城宗徳氏一行

◇10月3日　参議院建設、商工、運輸、地方行政各委員の一行

◇10月4日　中部日本災害対策本部長益谷秀次氏一行

◇10月5日　衆議院建設、農林水産各委員一行

◇10月11日　自治庁長官石原幹市郎氏一行

◇10月23日　通商産業大臣池田勇人氏一行

◇11月10日　日本銀行総裁山際正道氏一行

大野自民党副総裁

赤城防衛庁長官

った。でもいい、生きていたのだから。一家全滅の人もある。小さな子が一人残っただけのもあるのだ。家が無くなったのは私だけではない。早く学校へ通える日がくるようにがんばっていこう。と記している。

10月29日から仮設住宅入居がはじまり、11月5日全部を完了して避難所を閉じた。

被災者に対する給食の炊出しは、市立半田病院炊事場を本部として、27日末明から開始。家は残っていても浸水中で炊事のできない世帯も多かったので、当初は19,372人に行い、避難所や浸水地域へ自動車で配達した。救援物資の調達とともに、乾パン・かんづめ・果物その他が加えられた。

停電で精米機能が停止したため、一般に対する配給米に不安があったが、関係各機関の協力によってピンチを切り抜け、大災害ながら順調にはこんだ。

給水　長期浸水地域に対する飲料水の供給には消防署の消防タンク車を使い、10月4日まで続けた。一般は、災害による停電で上水道の機能が停止したので台風直後断水したが、27日先ず中央部に給水する星崎水源への送電が復旧、ただちに配水したが、激じん地の施設破損でろう水が多くて平常にはもどらなかった。続いて29日に阿久比川水源、30日には平地の送電が回復、一方被災個所の応急修理も進んだので95%まで回復し、10月6日上池給水所の配水で全市が復旧した。

にぎわう義援金品受付所

全国から続々と義援の品

生活物資・学用品の支給

こんどの被災者には、文字どおり着のみ着のままの人が多いので、27日とりあえずシャツ・パンツ・毛布

参議院委員の一行

益谷中災対本部長

池田通産大臣

決壊堤防の仮締切ができるまでは満潮のたびに侵水が増したので、侵水地域居住者は潮の干満表（見やすいところに掲出）によって行動、競艇ボートも連絡用に活用された。

その他生活必需の日用品を支給した。

市では台風の翌日から市役所内に義援金品受付所を開設したが、未曾有の惨害というので、地元はもちろん遠く全国各地から〝助け合い〟の温い心による金品が続々ととどけられ、これらの金品は県からの支給分とあわせて、自治組織を通じ被災程度に応じて順次分配した。

学校は始まつても教科書も学用品もない被災児童生徒に対し、教科書を小学校6,089冊・中学校2,693冊、学用品を小学校30万1809円・中学校47万6954円支給した。

弔慰金と見舞金

被災翌日の急施臨時市議会で、犠牲者1人につき大人2万円・小人1万円の弔慰金をおくることを決め、火葬をおわり次第順次遺族に謹呈した。

また、被災者に対し、入院治療の負傷者に2千円、流失・全壊の世帯に3千円、半壊・床上侵水の世帯に1千円、床上侵水以上の準世帯に1人3百円の見舞金を、それぞれ贈った。

激じん地の応急整理

被害が大きかった沿海地帯は、流木・漂流物や倒木で文字通り足のふみ場もなく、救援活動もはかどらないので、自衛隊・消防団をはじめ市民が協力して応急整理を行ない、とりあえず通路ををつくった。

この作業中にも数多くの遺体が発見された。

道路に流出した家財道具

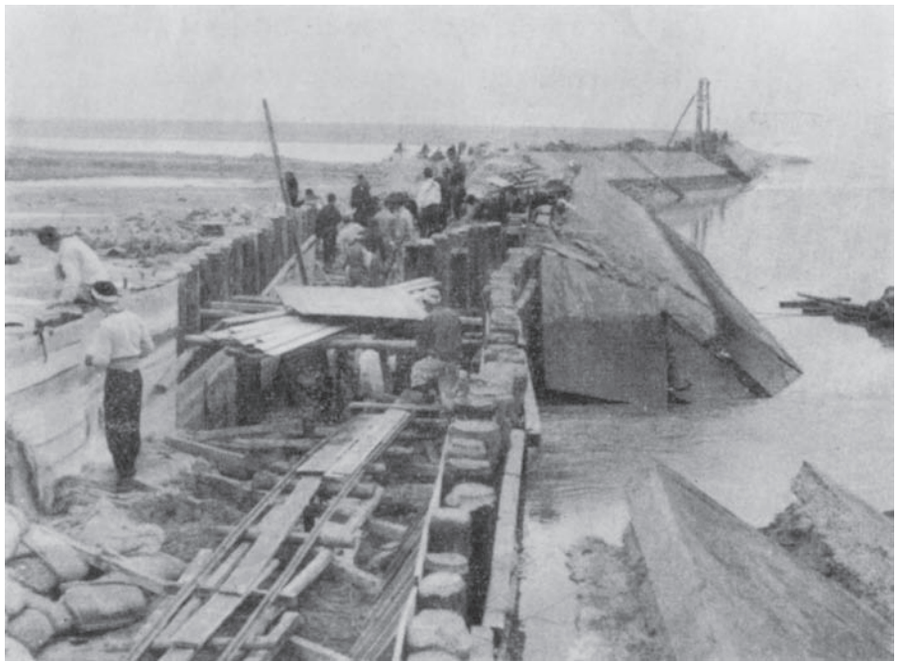
倒れた木をきりとり、つぶれた家をとりのぞく（自衛隊）

決壊堤防の仮締切作業

堤防の仮締切と排水

恐威の侵水を防ぐには、まず海水の侵入をとめなければならない。被災直後に土木出張所・港務所など関係機関と打合せを行ない、それぞれの所で管分担し、自衛隊・消防団・青年団・学生隊から地元民の協力をえて、ただちに破壊堤防の応急仮締切作業にかかったが、なにしろ決壊だけでも23カ所(延長2,050メートル）もあり、康衛町中堤防は約900メートルにわたり平均約1メートルのカサあげを必要とするなど、まことに大きな作業量を、水勢とたたかいながら敢行した。29日の乙川吉野町地内阿久比川堤防30メートルをトップに、つぎつぎと締切られ、10月16日の神戸川を最後に、全市の仮締切を完了した。

仮締切ができたところから排水作業を行ない、10月12日には最後まで残った新栄町地帯の家屋侵水も排除、11月9日に耕地の排水をも終わった。



雨の中で土のう作り

青年団の土のうつくり

高校生の土のう運び

労力奉仕と義援金品

被災が大きかっただけに、救援と応急の作業は文字どおり悪戦苦闘の連続であったが、この大きな推進力となったのは各種団体の勤労奉仕と全国的に寄せられた義援金品である。

被災直後の激じん地の混乱は言語に絶し、破壊堤防の応急修復は一刻をあらそい、被災者の救援救護や公共施設の応急修理など、急を要する仕事の山積に対して人手不足の悩みは深刻であったが、これを救ってくれたのは消防団を始め、青年団・婦人会・ＰＴＡ・学生隊その他の協力であった。農協などの運搬車提供もどんなに助かったかしれない。

これらの協力によって破壊堤防の仮締切工事はすすみ、漂流物の整理や街の清掃ができ、炊き出しや救援物資の配給がはかどり、校舎の応急修理もできたのである。

義援金品は、被災程度のかるかった市民ばかりでなく、広く全国各地から同胞愛の結晶が続々と寄せられた。義援金は3,686万円（市扱い679万円・県からの配分2,359万円・日赤から647万円）を突破、品物は衣類など約75万点、食糧約48トン、薬品などであるが、このほか団体等から直接被災者に渡った金品も多い。この金品は地域住民組織を通じ、被災程度に応じて随時配分されて、被災市民を力づけ、この惨禍のかげに心暖まる同胞愛の美しい花々を咲かせた。

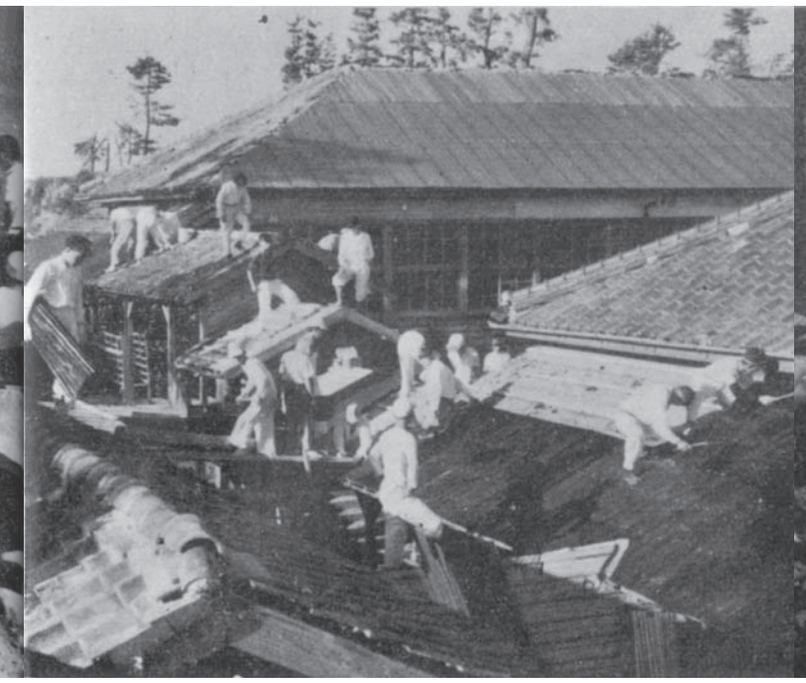
医療と防疫

台風直後の27日午前2時ごろから消防団協力のもとに、危険をおかして被災現地をまわり、重傷者や病人を市立病院に収容した。激じん地帯が市の中央東部であったので、傷病の手当はほとんど市立病院で行い、入院37名、通院521名。

軽傷者のために警備本部のところに10月23日まで救護所を設け、当初は1日約200人に手当てをした。

この種災害に伝染病の発生はつきものと、半田保健所はいち早く予防注意ビラを配布、退水を待って一せい消毒を行ったが、それでも災害後2ヵ月間に赤痢患者143名が発生した。

水がひけば伝染病予防の消毒



ＰＴＡの被害校舎修理

婦人会の救援物資整理

任坊山の応急仮設住宅

住宅対策

災害救助法にもとづいて建設する応急仮設住宅（5坪）は約400戸の割当があったので、被災者の実情とにらみ合わせて各地区別に集団建設地を選定、10月5日に起工し、任坊山に126戸・北浜田に20戸・大池町に16戸・平地馬場に73戸・北浦に50戸を建設、さらに個人宅地に単独166戸を建てたので、合計451戸となった。また、災害救助法にもとずく半壊家屋の補修（2万円以内）は、約600件を行なった。

住宅金融公庫の災害復興住宅資金（新設30万円・補修15万円）の貸付けに対し、市が債務保証をするとともに、公庫貸付金の6割以内で市が応急融資して住宅の復興を促進。

農業対策

被災状況を調査し、作付中の農作物および家畜に対する応急対策を指導するとともに、県当局に交渉して35年度稲の種子を確保し、冠水耕地の塩分濃度調査を行なう。

天災融資法にもとづく経営資金など復旧資金の申請とりまとめ。

商工対策

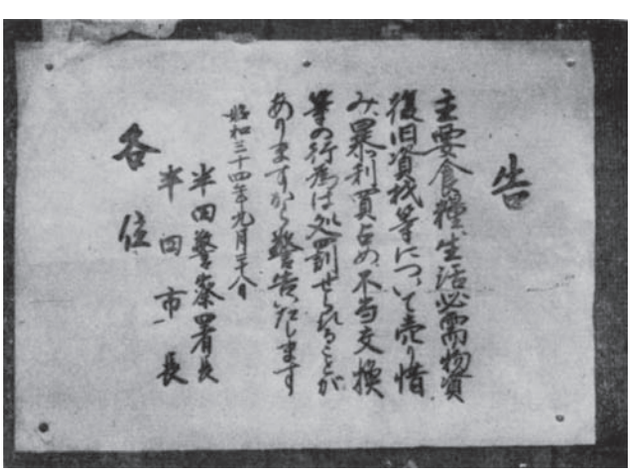
応急復旧資材の確保、あっ旋につとめ、復旧資材の円滑な導入につとめた。

被災業者の立ちあがりを促進するため、その復旧資金および運転資金の速やかな供給をはかり、国民金融公庫・信用保証などによる金融措置をすすめた。

水がひいたあとは手がつけられない流木とガラクタの山

漂流物整理と清掃

流失家屋などによるおびただしい漂流物の除去と清掃作業は、地域団体や高校生の奉仕によってすすめられたが、10月20日から3日間にわたり特別処理隊（警察・消防・高校生市職員の約120名）を編成して東・瑞穂両区内の搬出整理を行なった。



告

主要食糧生活必需物資
復旧資材等について売り惜
み暴利貪ぼの不当交換
等の行為は処罰せられることが
ありますから警告致します

昭和三十四年九月三十日

半田警察署長
半田市長

各位

暴利取締りのポスター

治安対策

被災家屋や流木の盗難・暴利販売・押し売りやサギ・交通の安全など被災地の治安確保は、警察に消防が協力して活動。ポスターの掲出や広報車によって民心安定をはかった。

災害日誌

9　月

26日　▷台風情報により午後より土木課員が市内堤防等の危険個所を点検、応急資材等を手配▷幹部職員および要員残留待機▷午後２時30分低地帯の市民に避難の周知▷午後７時ごろから暴風雨圏に入り、全市停電▷午後８―９時ごろ堤防をこえて高潮襲来▷午後８時50分ごろ中村町地内で出火▷午後10時災害救助法の発動と自衛隊の出動を要請▷災害対策本部を設置

27日　▷午前１時災害救助法が発動され、災害救助隊半田市支隊を編成▷避難所36ヵ所を開設、被災者への食糧・飲料水・生活必需品の補給を開始▷遺体の収容開始▷災害義援金品受付所を開設▷被害激じんの東区に災害対策警備本部（半田警察署）および救護本部を設置▷午前10時急施臨時市議会を開き、応急救護策を協議▷午前11時自衛隊70名到着▷上水道星崎水源復活▷緊急消防団長会議を開き、復旧作業協力等につき打合せ▷本日以降市職員は平常業務を中止し、救護活動に専念▷犠牲者多数につき臨時火葬設備をする

28日　午前８時定例市議会を開き、応急仮設住宅建設などを付議▷議会に災害救護対策本部を設置▷政府が愛知県庁内に中部日本災害対策本部を設置▷市長・議長災害対策要請に出県▷日赤島津社長一行被災状況を視察▷康衛町中堤防のカサ上げ作業開始▷暴利取締りの警告▷遺体の火葬開始

29日　▷　阿久比・神戸両川の決壊堤防仮締切り作業開始▷上水道阿久比川水源復旧▷犠牲者に対する弔慰金贈呈を開始

30日　▷気象庁、台風15号を伊勢湾台風と命名▷市議会全員協議会で復旧対策を協議▷臨時教育委員会を開き学校災害対策を協議▷大野自民党副総裁・村上建設大臣一行が被災状況を視察、市長室で半島の市町村長らが復旧につき陳情▷海岸決壊堤防の仮締切作業開始▷上水道平地給水所復旧

10　月

1日　▷赤城防衛庁長官一行が被災状況視察▷神戸市助役らが現地視察

2日　▷中部日本災害対策本部へ復旧陳情書提出▷復旧につき議会全員協議会▷大潮のため中堤防のカサ上げが決壊▷住宅建設の件で市長出県

3日　▷床上浸水以上の被災世帯に見舞金▷参議院各種委員が被災状況視察

4日　皇太子殿下が空から被災地ご視察▷益谷中部日本災害対災本部長（自民党副総理）一行が被災状況を視察▷市民からオート三輪車の出動を求め、市内高校生の応援で清掃作業▷災害復旧資金保証融資の申込受付を開始

5日　被災者用トタン・クギの配給と復旧用瓦のあっ旋を開始▷応急仮設住宅の建設開始▷衆議院各種委員一行の被災状況視察▷武豊線大府半田間復旧

6日　▷商工業被害調査を開始▷上水道上池給水所復旧、これで全域回復▷台風16号を警戒

7日　▷定例市議会を再開し、災害救助費１億７千余万円その他を可決▷中堤防のカサ上げ作業完了▷大学教授による災害学術調査団が決壊堤防を調査▷武豊線半田武豊間復旧

8日　▷自衛隊23名増強▷建設省計画局の建設技官一行が来庁▷被災校舎の応急修理を開始

9日　▷中堤防に排水機４台を設置して排水開始

10日　▷全員協議会を開き、市議会災害復旧連絡会議を設置▷市役所平常執務にもどる

11日　▷住宅金融公庫災害復興住宅資金の申込み受付を開始▷石原自治庁長官一行が被災状況を視察▷潮止作業につき消防団長会議

12日　▷半田港・阿久比川の決壊堤防を午前６時30分の干潮時を期して一斉に仮締切

13日　▷午前９時自衛隊全員帰隊、市長より感謝状を贈る▷災害技術調査団（牧東京農大教授団長）が衣浦干拓の決壊堤防を調査▷衣浦干拓決壊堤防の仮締切工事開始▷災害義援金配分委員会を設置▷住宅侵水まったくやむ

14日　▷住宅侵水地域を一斉消毒▷市内街路灯の整備開始

15日　▷康衛町海岸決壊堤防の潮止工事終る▷被災中学生に教科書を補給▷被災者用酒類の特配開始

16日　▷神戸川決壊堤防の仮締切り成り、全市の応急防潮工事完了▷被災小学生に教科書補給

17日　▷市内被災地域が税金減免地域に指定さる▷台風18号を警戒

18日　▷排水機３台で康衛町方面の排水を開始

19日　▷午前６時30分ごろ前潟町地内神戸川堤防が増流のため決壊して侵水、一部民家が避難▷罹災都市借地借家臨時処置法適用さる▷犠牲者合同葬執行につき打合会

20日　▷全遺体発見につき捜索打切り▷漂流物処理隊を編成、３日間東・瑞穂両区内の漂流物を整理▷亀崎高浜間に定期船就航（愛知観光船）▷建設省大沢政務次官一行が被災状況を視察

21日　▷準世帯の床上侵水以上の被災者に見舞金を贈る▷市内電話全域復旧

22日　▷急施市議会を開き、災害の救援復興に活動した自衛隊・半田署・市内消防団に感謝決議、被災者の市税減免などを可決

23日　▷救護本部を閉鎖▷池田通産大臣が被災状況を視察

24日　▷避難所を主に巡回慰安映画を開始

25日　▷午前10時から半田小学校庭の特設斎場で、台風犠牲者の合同葬儀

26日　▷災害復旧につき陳情のため市長上京

27日　▷学校災害復旧に関する陳情書提出▷午後２時から被災地で東区婦人会の犠牲会員慰霊祭

28日　▷災害対策を主とする臨時国会開会▷災害復興陳情のため市長上京

29日　▷避難所収容者の応急仮設住宅入居開始▷臨時県議会開会、86億余円の災害追加予算を上程

30日　▷半田中学校の犠牲生徒合同慰霊祭

11　月

2日　▷康衛町その他の海岸仮締切り堤防が満潮で危険となり、午前６時30分消防団員を非常招集して補強作業

4日　▷冠水耕地の塩分濃度調査▷災害復旧につき市長上京

5日　全避難所を閉鎖▷▷中堤防のカサ上げ施工陳情に市長・議長出県▷雁宿公園の風倒木を処理

6日　▷被害激じん地指定に関し市長上京

8日　▷婦人会連絡協護会が順正寺で犠牲会員追弔法要

9日　▷長期冠水田の排水完了

10日　▷半田小学校で犠牲児童の合同慰霊祭▷山際日銀総裁一行が被災状況を視察

12日　▷急施市議会を開き、住宅金融公庫の貸付金保証その他を可決▷競艇事業の廃止を決める

17日　▷住宅金融公庫の災害復興資金融資に市が債務保証を契約▷石渡国民金融公庫副総裁一行が被災状況を視察

葬儀場入口

犠牲者合同葬

この台風のため非業の最後をとげられた市民の合同葬が、10月25日午前10時から半田小学校庭の特設斎場で営まれた。正面霊壇に290柱の遺骨をまつり、各方面から100余の花輪生花がささげられ、約800名の遺族をはじめ関係者や市民など合計1千数百名が参列、半田市仏教会員奉仕のもとに、定刻サイレンを合図に市民黙禱のうちに始まり、市長（葬儀委員長）議長その他の弔辞について焼香が行なわれ、北川兼吉さん（故北川伊三郎市議長男）が遺族を代表して謝辞をのべ、半田商業高校女生徒の〝追悼の歌〟のコーラスで11時すぎ終わった。

焼香する遺族

弔　辞　　半田市長　深津玉一郎

半田市民ゆかりの半田小学校庭に聖域を設け、ここにうやうやしくお招きいたしました290柱のみ霊に、真心こめて申し上あげます。

皆さまは、こんどの伊勢湾台風の犠牲となられ、あの悪夢の一夜一しゅんにして逝かれました。ご遺族のあるお母さんは「手がはなれたしゅん間が永遠の別れでした。さびしかろうと大人の棺に二人を一しょに入れてやりました」といわれました。仕合わせであった一家全員が、そのまま帰らなくなられた家もございます。生者必滅は避けがたい定命とは申せ、それは天寿を完うした場合でもたえがたい悲哀でございますのに、ましてこの不慮の事態ではさぞかし心残りでございましょう。

花は散ってもまた咲きます。月は欠けても必ず満ちる時がまいります。しかし一たび逝かれた皆さまは二度とかえることはありません。あのやさしかった声もかわいらしい顔も、なにもかも思い出になってしまいました。いまさらながら天の無情が嘆げかわしく、ご遺族のご心中さこそと胸のつぶれる思いでございます。

このような無残が二度とあってはなりません。私どもは皆さまのご不幸を胆に銘じ、台風は避けられないがその被害を最少限に食いとめることに最善をつくして、この半田市を〝安住の地〟としなければなりません。かならずやり抜く決意をいたしております。

ここに七万市民の哀悼の誠をささげ、ご遺族の今後にできるだけのお力添えをいたす所存をお伝えいたしまして、ひたすらご冥福をお祈りいたします。

弔　辞　　半田市議会議長　杉江 喜一

本日ここに伊勢湾台風半田市犠牲者の合同葬儀を執行さるるに当り、市議会を代表して謹んで弔意を申しあげ

弔　辞　　愛知県知事　桑原 幹根

史上最大といわれる今次伊勢湾台風のため、あえなくもこの世を去られました290柱のみ霊をお慰めする合同葬儀がおごそかにとり行われるにあたり、限りない悲しみをこめて追悼のことばをささげます。

思い起すもいまわしい9月26日夜半、県下全域にわたり人為にいどみ来たった大自然の猛威は、数時間の間に三千数百名の尊い人命と、三千億円に達する貴重な県民の財産を奪い去ったのであります。長い間営々と築きあげた理想郷土の夢も一しゅんのうちについえ去り、今なお数万の人々が水没地域に、あるいは避難所に不自由な生活を営んでおられるのであります。

あの夜、たけり狂う暴風雨に私どもが救助隊本部で各地の被害いかにと憂うるうちに、唯一の通信手段であった警察電話の受話器に響いたのは「ただ今、半田堤防決壊、市役所付近まで浸水、死者約三百名、加えて大火発生、目下類焼中」と深津市長の悲痛な呼び声でありました。

県下全域に指令して整えた万全の態勢も、また13号台風のにがい経験にてらし予想し得る潮位をはるか上まわる災害を想定して建設した堤防も、今次台風の想像を絶する規模の前には全く〝とおろうのおの〟にすぎなかったのであります。その名もおだやかな衣浦の海水が、このような大災害をもたらすとは誰が予想し得たでありましょう。

今ここに、むなしく犠牲となられたみ霊とそのご遺族の心情に思いをいたしますとき、ご同情のことばをも知りません。

私どもは、み霊の尊い犠牲を無にすることなく、県の総力をあげて災害復旧に尽すいたしているのでありますが、被災地の傷跡は余りに大きく、完全復旧をみるまでには未だ数カ月を要する状況にあるのでございます。どうかみ霊には幽明境を異にされたとは申せ、われ等が復興への努力に限りなきお力添えを賜わらんことを、祈念してやまないのでございます。

おわりに、み霊のご冥福を心からお祈りいたし弔辞といたす次第でございます。

弔辞をのべる犠牲学童の友人代表
半田小学校六年　佐尾つたよさん

ます。

昭和34年9月26日、私どもは永久に悲しむべき日として忘れることはできません。あの夜半、おし寄せる暴風雨にお互は刻々と迫る危険の恐ろしさを知れども、時すでに遅くしてなすべき術もなく、一しゅんにして堤防は決壊され、家屋は押し流され、暗夜の町は一面どろ海と化し、波浪の中をお父さんを呼びお母さんを求め、わが子の名を叫びつつ災禍の犠牲となり、住みなれし家とともに遂に不帰の客となられた290名、今をしてここに私ども余りにも悲しき極みであり、そして残されたご遺族の方々にお慰めを申しあげる言葉もありません。謹んで霊位に対し心から哀悼の意をささげる次第であります。

呼べど答えず、姿はなけれども、ありし日の面影は強く肉親の胸裏に消えず、いかにつくせどご遺族の方々の心中は察し難くして、私どもも万感胸に迫り、筆舌にては尽せず、ただただ心からおくやみ申しあげる次第であります。

しかしこの度の大災害は、天災とはいえ余りにも深刻なできごとにして、本市においては未曾有の大惨害にて翌朝直ちに災害救助法は適用され、市当局と市議会は一体となり緊急対策をとり、まず死者の收容、罹災者の救援にと万全を期し、特に地元警察署•自衛隊•消防団員•各種団体市民各位のご協力のもとに全力をそそぎ、不幸中にも諸霊の收容も罹災者の救済も早く一応の見通しを得て、重ねて決壊堤防の応急締切に総力をあげてまいりました。この間、県当局•中部対策本部長を始めとして関係各位の現地実情を詳細にご視察をいただき、救援復興にと数多くのご助言を賜わりしは、私どもも心から感謝をいたしております。なおそれとともに、全国各地の方々より続々と幾多の義援金ならびに救援物資の温いご援助は忘るることはできません。

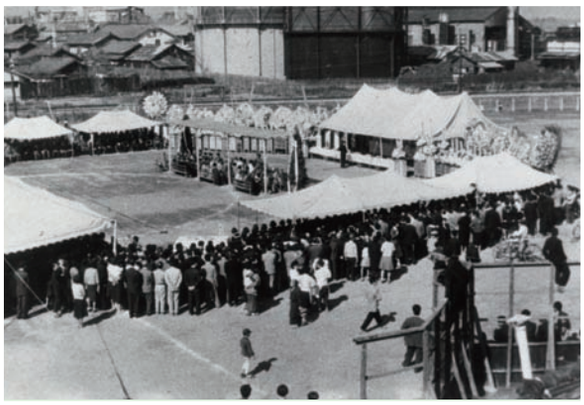
今後の本市復興再建に当っては幾多の困難や障害は予想されますが、私どももまず被災地の声として卒直に関係機関に訴え、数々の寄せられたご助言を力として七万市民の協力のもとに、再びこのような不幸を招かぬべく努力をして諸霊におこたえいたしたいと存じ、お誓いするものであります。

ひるがえって思いをご遺族の身上に及ぼせば、さだめし今後ご苦労の多いこととは存じますが、私どもも及ばずながらもお力添えとなり、ご相談を受け、よりよい故人の遺徳を永遠にたたえたいと存じます。

幸に諸霊のご加護により一日も早く半田市復興ができますよう、なおご遺族のご安泰を心から祈念して弔慰の辞といたします。

被　災　地 ～ 過去・現在 ～

伊勢湾台風半田市犠牲者合同葬儀式場
（半田市立半田小学校運動場）



新栄町地内

港町三丁目地内　武豊線流出状況

山方町地内　山方神社付近

伊勢湾台風50年
防災シンポジウム

主　催：半田市・半田南ロータリークラブ
開催日：2009年10月17日（土）
場　所：アイプラザ半田

講師　長島忠美氏（衆議院議員・旧山古志村村長）

講師　中貝宗治氏（兵庫県豊岡市長）

半田小学校3年生による伊勢湾台風を題材にした劇

伊勢湾台風50年
慰　霊　祭

開催日：2009年9月26日（土）
場　所：瑞穂記念館

浸　水　位

「伊勢湾台風浸水位」設置場所（H21.6.1現在）

半田市役所西玄関花壇内
半田市青年の家体育館西壁
半田市役所第2庁舎西
JR東成岩駅南壁
成岩東児童遊園南側
協和保育園北側
水防倉庫前（港町）
東保育園北花壇
保健センター南花壇
乙川吉野町ガード下
JR乙川駅前児童遊園東側
洲の崎公園南側
神前神社防火水槽横
亀崎公園南
六番公園南西
JRガード東
半田商工会議所南側ブロック壁
半田消防署東側壁
三社公園北トイレ横

「伊勢湾台風と半田市」の発刊にあたり

半田市長
榊 原 純 夫

昭和34年9月26日夜、当地方に襲来した伊勢湾台風は、半田市に未曾有の被害をもたらしました。暴風と高潮により、半田市沿岸地帯で甚大な被害を受け、市民290人余りの尊い命が亡くなり、9500世帯以上が被災いたしました。

当時、小学校5年生の私は、こんな作文を書いていました。“…夕食を食べていたら、急に電気が消えた。それと共に風は物凄く強くなってきた。屋根がそこらじゅうで「ガバン、ガバン」言いだした。だが風が強いのでどうすることも出来ない。…僕達の学級でも、二人が死んだ。僕はどうしても本当に死んだとは思えない。風邪かなんかで二人とも休んでいて、またひょっこり出てくるような気がする。…”今でも当時の様子を思い出します。

被災から半世紀が経過し、被災体験者や遺族などが高齢化する一方で、伊勢湾台風を知らない世代が多くなりつつあるこの時期に、被災から学んだ教訓を風化させることなく、風水害の恐ろしさや災害への備えの大切さを、後世に伝えていくことが、私たちの責務であると考えます。

伊勢湾台風の後、本市では、市民の生命と財産を守ることを最優先課題とし、浸水対策を中心に防災施策を重点的に行ってまいりました。

今後も、地域住民と行政や関係機関が連携し、安心・安全で災害に強いまちづくりに努めてまいりたいと考えております。

最後に、亡くなられた方のご冥福を心からお祈りし、併せてご遺族皆様のご多幸を祈念申し上げまして、むすびのことばとさせていただきます。

復刻版の発刊にあたり

半田南ロータリークラブ会長
石 川 勝 彦

中日新聞朝刊一面に「堤防決壊つめ跡鮮明」の見出しで被害直後のカラー写真100枚の中でトップで扱われていたのは、堤防に激突し、座礁した貨物船の写真です。50年前の災害を表す代表的な記録です。今ではその場所すら知る市民は少なくなりました。市役所から衣浦トンネルへ向かう途中にある衣浦臨海鉄道の辺りです。台風の猛威を物語る貴重な写真であると同時に、この地に大きな被害をもたらした証であります。（本書9ページ下の写真）

災害は忘れた頃にやって来ると言われますが、昨今は異常気象により、次から次へと災害が起きております。災害を予防すると同時に、災害が起きてしまった時に被害を最小限に食い止めなければなりません。日頃からの備えと心構えが大切です。残念ながら全てを行政に頼る訳にはいきません。地域の連帯や助け合いが大切です。

この生々しい伊勢湾台風の記録は後世に伝えていかなければなりません。本書がその一助となり、活用されんことを祈っております。

中央部激じん地の惨状（被災翌日うつす）　読売新聞社提供

愛知県半田市役所
1960年１月発行

発　行　半田市・半田南ロータリークラブ
発行日　2009年12月